

丁
333.9
SE

12034

ガーナ国/ボツワナ国巡回指導調査団
報告書

JICA LIBRARY



1208340 [8]

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局
平成12年3月

青	
J	V

報告書要約

(ガーナ)

今回、ガーナ北部のボルガタンガ→タマレ→クマシとガーナ国内でも自然環境の厳しい地域に派遣されている隊員を視察した。調査団が到着した頃ちょうど隊員の間で腸チフスが流行しており、当初視察を予定した隊員にも腸チフスにかかってしまった人がいたため視察行程を変えざるを得ない状況であった。それでも、現地事務所の計らいにより多くの隊員の活動現場を視察することができた。概要は以下のとおり。

ボルガタンガ

ガーナ派遣隊員のなかで最も北に位置し、最も現地事務所から遠い。気候は暑い（夏には45度にも達するとのこと）が、乾燥している。ここで、吉岡隊員、磯部隊員、清水隊員の活動現場を視察した。それぞれ、活動は概ね順調に展開できている模様。ただ、ちょっと気を緩めるとすぐにマラリアにかかるということで、気を使っているようであった。

タマレ

ボルガタンガから南へ約200キロ南下したところに位置する。ここもやはり。気候は暑く、乾燥している。タマレから約60キロ離れたルーラル地域の学校で磯崎隊員は活動している。特筆すべきことは、前任者が校外の住居に住んでいたが、磯崎隊員が現地訓練中に訪れ、校長と話し合い校内に住居を用意してもらった経緯がある。とても頼もしい隊員であった。

クマシ

クマシはアクラから約200キロ離れたところにあり、ガーナ第2の都市である。クマシ周辺の部族アシャンティ族は奴隷貿易時代他の部族の者を捕らえ売っていたことから気の荒い部族である。こうした、気の荒い性格の人が多いのか現地の人との付き合いに苦労する隊員が多いようであるが、今回視察した山口隊員、丹隊員はこうしたことで苦労している様子はなかった。



1208340 [8]

(ボツワナ)

ボツワナでは地方部へ派遣されている隊員の様子を視察するため、最も北に位置するシャカウエからマウンを中心に視察した。現在ボツワナの北部の国境が接しているナミビアの Caprivi Strip 地域やナミビアとアンゴラの国境付近でアンゴラ軍と UNITA 軍が戦闘している。ボツワナの北部国境にはボツワナ軍と米軍が配備されているものの、ボツワナ国内にはまったく緊張した様子はなかった。調査結果概要は以下のとおり。

Vocational Center

ボツワナ国内に6つある職業訓練校である。今回そのうち3ヶ所視察した。Vocational Center は教育省の管轄で教育省が運営母体となっている。Vocational Center へは Sec.School 卒業後入学し職業訓練を受けることになるが、学校の設備費及びランニングコストは政府から支給される。また、驚くべきことに生徒には毎月90プラ (US 5\$) の手当が出る。

Brigade

ボツワナ国内に41ある職業訓練校である。今回そのうち3つ視察した。Brigade は教育省の管轄であるが運営母体は地域のコミュニティーとなっている。Brigade への入学は Sec.School 卒業後ではあるが、必ずしも Sec.School を卒業している必要はない。学校の設備費は政府から支給されるがランニングコストは自分達でねん出する必要がある、各校ランニングコストの捻出に躍起になっていた。隊員はここでは生徒への教育よりは即お金になる事業への支援が強く求められていた。また、驚くべきことにここでも生徒には毎月20プラの手当が出る。

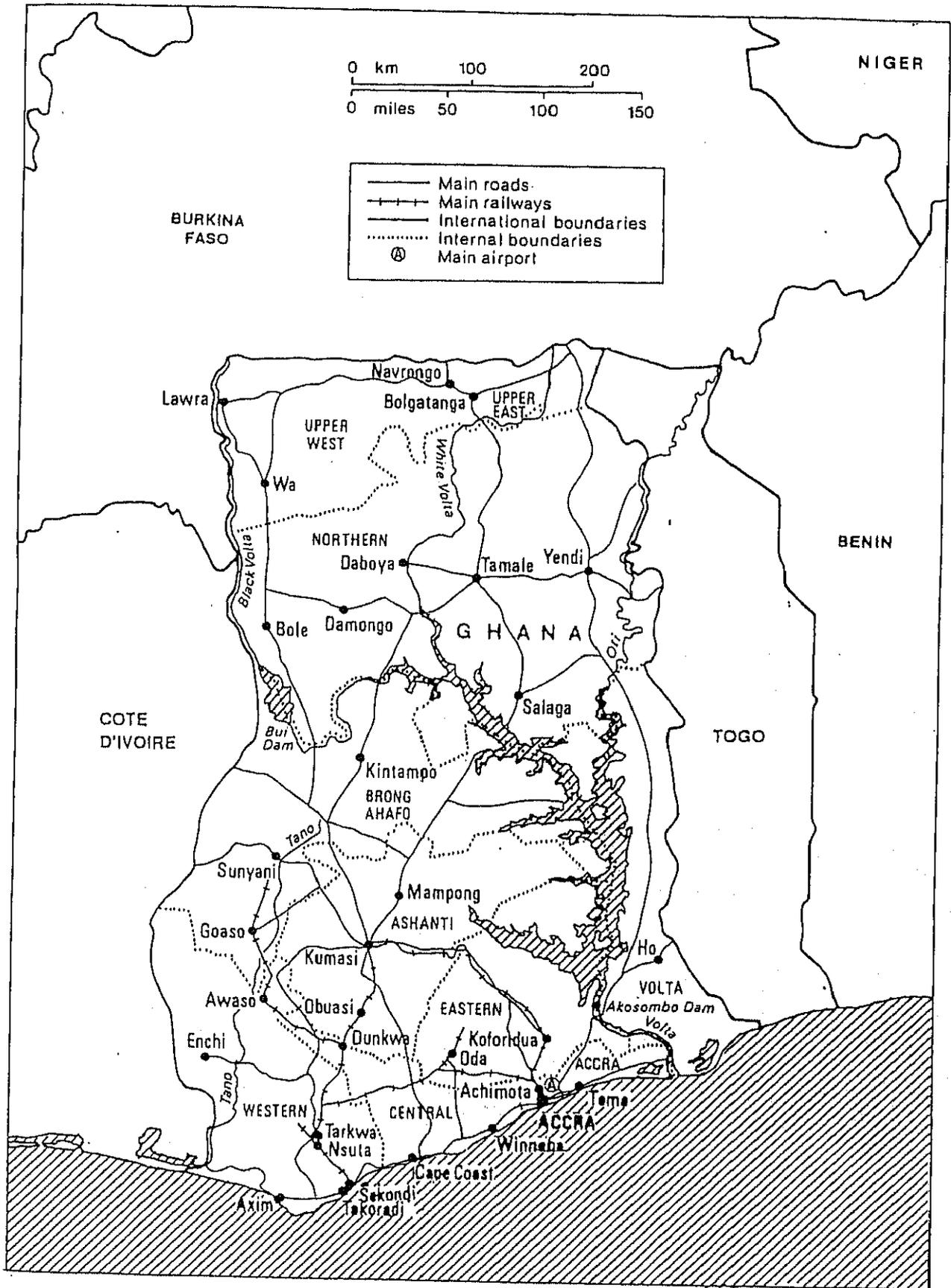
現地事務所では今後の隊員派遣をこの Brigade を中心にして行きたいとの意向であった。

目次

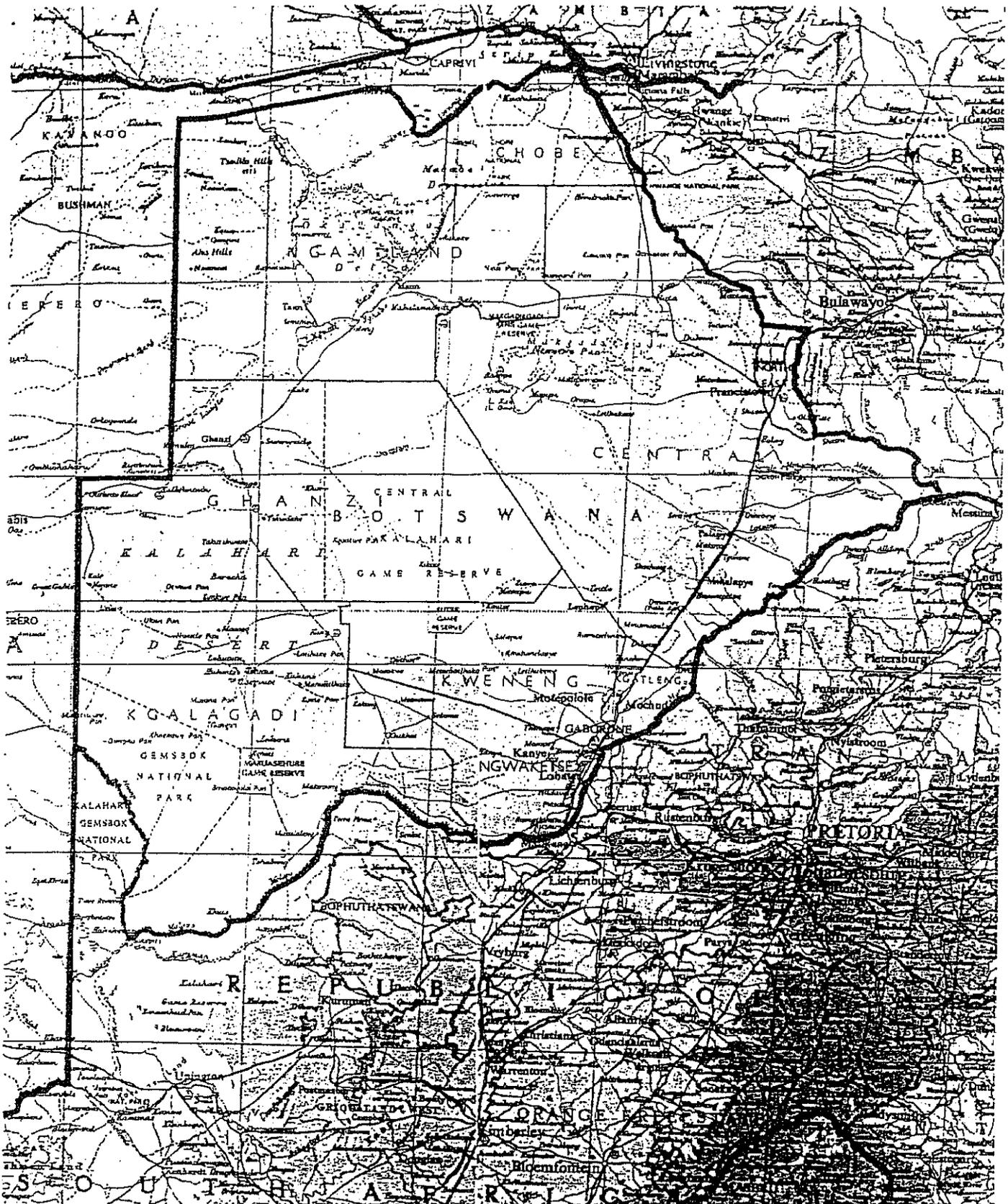
- 1 調査団名
- 2 調査期間
- 3 団員構成
- 4 調査団派遣の背景
- 5 調査項目
- 6 調査日程
- 7 調査結果
- 8 各 JICA 事務所との協議結果

別添：参考資料（隊員配置図）

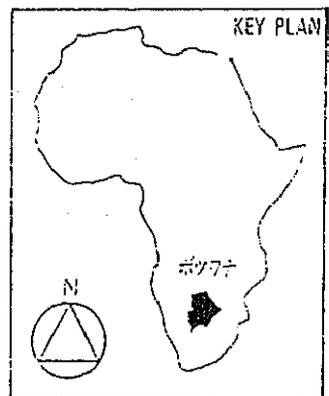
ガーナ



Botswana



Scale: 0 50 100 150 200 Kilometers



- 1 調査団名：ガーナ／ボツワナ巡回指導調査団
- 2 調査期間：平成12年1月8日（土）～同1月26日（水）（19日間）

田中団長は、前半のみで

平成12年1月8日（土）～同1月21（金）（14日間）

3 団員構成：

氏名	担当業務	所属	派遣期間
(1) 田中清邦	技術指導	国際協力事業団 青年海外協力隊技術顧問	1月8日～22日
(2) 浜田 豪	業務調整	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局海外第2課職員	1月8日～26日

4 調査団派遣の背景

（ガーナ）

同国への派遣隊員数は55名、うち25名が理数科教師であり、その1名はワールドコーディネーターとしての役割を果たしているシニア隊員である。今後も他の職種との兼ね合いにもよるが、派遣中隊員全体の約半数（25～30名）を目安に派遣を継続していく予定である。現地事務所は配属先として現地スタッフ、特に校長の協力を得られる高校のなかで、以下のような要請へ隊員を派遣する考えである。

①継続要請で継続効果の見込まれる高校からの要請

②1996年から各 District のいくつかの高校に設置されている SRC（“サイエンスリソースセンター” 理科実験室）の設置校とその SRC 設置校へ SRC を利用しに来る学校（サテライト校）からの要請

こうした今後の派遣方針等について技術顧問に活動現場を視察してもらい必要な助言をし、今後の募集選考における留意点等について調査する。

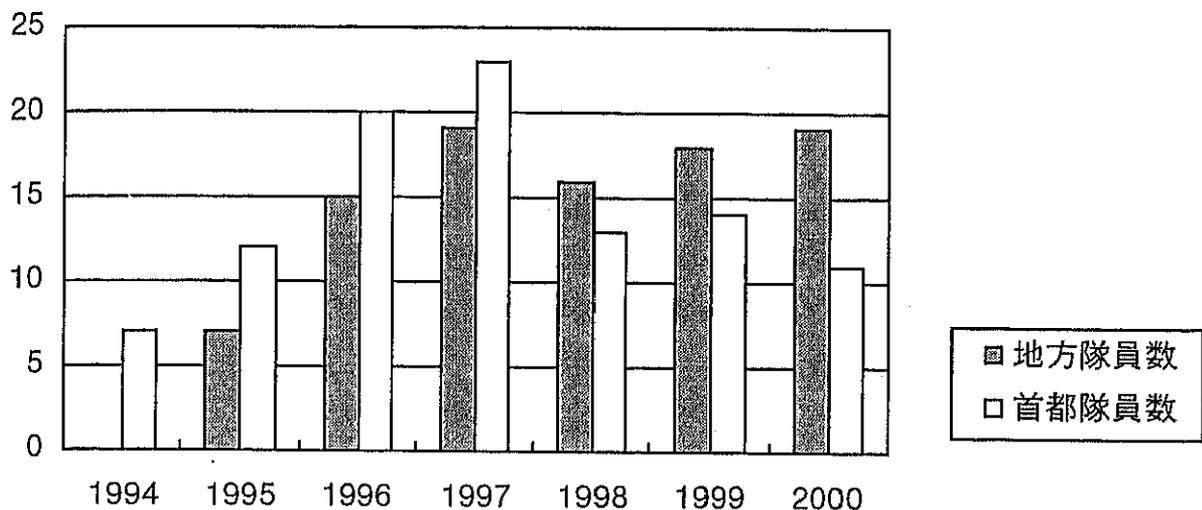
他方、現在活動中の隊員の多くは教職経験がなく、教員免許のない者が多く、そのため活動上様々な障害にあたっている。これら隊員の活動現場を技術顧問に視察してもらい必要な助言を行ってもらう。

また、ガーナでは隊員の地方展開が進んでおり、厳しい環境（45℃以上の暑さやマラリア汚染）の中で活動を行っている隊員が多い。こうした地方隊員の活動現場及び生活環境を視察し、隊員の地方展開にあたっての留意点等について調査する。

(ボツワナ)

同国への派遣隊員数は25名(平成11年11月1日現在)。隊員派遣開始当初(平成4年)は、首都ハポロネ近辺を中心に派遣されていたが、現地事務所の地方展開を意識した要請開拓により、現在では首都近辺で活動する隊員数は10名で全体の40%である。(図1参照)

(図1)



注) 各年度4月1日を基準に算出 2000年については11/3次隊着任時を想定

また、ボツワナは1人当たりGNP\$3260と比較的裕福な国であり、ボツワナ政府も鉱山資源の産出で財政的には潤っている。そのため技術力をお雇い外国人に頼る傾向が強い。隊員派遣開始当初は配属先でお雇い外国人と同様の扱いを受けるケースやそうしたお雇い外国人と配属先でもめるケースが多かった。こうした協力隊員事業に理解を示さない配属先への隊員派遣を打ち切り、地方の隊員ニーズの高い配属先を開拓した結果、不平不満を抱えて活動する隊員が減少した。地方での配属先はBrigadeやVocational Centerといった職業訓練校などの教育機関が多く、隊員は教育を通しての人材育成を目指した活動を展開している。こうした地方の隊員の生活環境及び活動現場を視察し、今後の派遣方針や隊員支援体制について現地事務所と協議する。

(南アフリカ共和国)

在南アフリカ共和国日本大使館は日本大使館のないボツワナを兼括しており、上記ボツワナでの調査結果を報告する。また、南アフリカ共和国へは現在協力隊員は

派遣されていないが、近々 E/N が締結される見込みである。E/N 締結後 JICA 南アフリカ共和国事務所と南アフリカ共和国側のニーズを踏まえ、派遣分野等について協議する。

5 調査項目

(ガーナ)

- (1)理数科隊員の活動状況を調査し、問題点を把握した上で今後の活動について必要な指導・助言を行う。
- (2)現在派遣されているシニア隊員の活動状況を視察し、今後のシニア隊員の派遣についておよび今後の理数科分野での協力について現地事務所と協議する。
- (3)ガーナは小中学校への海外ボランティアの受入をしていない一方、理数科分野での協力効果をあげるためには小中学生の基礎学力の向上が必要との隊員の意見がある。こうした現状を視察し、技術顧問から隊員へ必要な助言をする。
- (4)今後の隊員派遣を見込んでいる継続要請で継続効果の見込まれる高校、SRC の設置校とそのサテライト校を視察し、要請背景調査を行い、調査結果を今後の募集選考時の参考にし、また訓練時に候補生へ情報提供する。
- (5)地方の厳しい環境の中で活動を行っている隊員の活動現場および生活環境を視察し、今後の地方展開のあり方について現地事務所と協議する。

(ボツワナ)

- (1)地方の職業訓練校 (Brigade ならびに Vocational Training Center) を視察し、現場責任者や隊員の同僚と面談し、隊員の活動状況について調査を行う。
- (2)ボツワナ政府隊員受け入れ窓口機関を訪問し、今後の隊員派遣について協議する。特にボツワナから出される要請の多くが高い学歴を求めており、現場で必要な技術とアンバランスなため募集選考時の隊員獲得が困難なことを伝え、資格条件の緩和の可能性について協議する。
- (3)地方ので活動を行っている隊員の活動現場および生活環境を視察し、今後の地方展開のあり方について現地事務所と協議する。

(南アフリカ共和国)

- (1)E/N 締結後の派遣分野及び派遣地域について JICA 南アフリカ共和国事務所と協議する
- (2)南アフリカ共和国、特にヨハネスバーグや首都プレトリアの治安状況についての情報を収集する。

6 調査行程

(1) 田中団長調査行程

	月日	曜日	時間	調査行程	宿泊地
1	1月8日	土	12:00	成田発	ロンドン
2	1月9日	日	19:55	ガーナ アクラ着	アクラ
3	1月10日	月	9:00 13:00	教育省表敬訪問 ガーナJICA事務所と打合せ	アクラ
4	1月11日	火	8:00 10:00	アクラ発 隊員活動現場視察 大原隊員 (理数科教師 10/2) 新赴任隊員教育実習視察 大原隊員 友久隊員 大山隊員	ホ
5	1月12日	水	8:00 9:00 13:00 16:00	ホ発 隊員活動現場視察 宮嶋隊員 (理数科教師 11/1) 鈴木隊員 (理数科教師 9/1) Taviete Sec.School視察	ホ
6	1月13日	木	8:00 8:30 13:00	ホ発 隊員活動現場視察 上村隊員 (理数科教師 11/1) 新赴任隊員教育実習視察 伊藤隊員	ホ
7	1月14日	金	8:00 9:30 13:00 15:00	ホ発 隊員活動現場視察 雨宮隊員 (理数科教師 10/1) 貴田隊員 (理数科教師 11/1) ベキ発	アクラ
8	1月15日	土	13:00	理数科教師隊員意見交換会	アクラ
9	1月16日	日		資料整理	アクラ
10	1月17日	月	9:30 11:00 13:00	アクラ発 St.Stephen's Presbyterian Sec.Tec.School視察 隊員活動現場視察 格和隊員 (理数科教師 10/3)	クマシ
11	1月18日	火	9:00 10:00	クマシ発 隊員活動現場視察 仲俣隊員 (理数科教師 11/1)	アクラ
12	1月19日	水	23:00	アクラ発	機内泊
13	1月20日	木	5:35 19:00	ロンドン着 ロンドン発	機内泊
14	1月21日	金	15:45	成田着	

(2) 浜田団員調査行程

日順	月日	曜日	時間	調査行程	宿泊地
1	1月8日	土	12:00	成田発	ロンドン
2	1月9日	日	19:55	ガーナ アクラ着	アクラ
3	1月10日	月	9:00 13:00	教育省表敬訪問 ガーナJICA事務所と打合せ	アクラ
4	1月11日	火	9:00	アクラ発	ボルガタンガ
5	1月12日	水	9:00 11:00 14:00	隊員活動現場視察 吉岡隊員 (理数科教師 10/1) 磯部隊員 (家政 11/1) 清水隊員 (SE 10/2)	ボルガタンガ
6	1月13日	木	9:00 13:00	ボルガタンガ発 隊員活動現場視察 磯崎隊員 (理数科教師 11/1)	タマレ
7	1月14日	金	9:00 13:00 15:00	タマレ発 隊員活動現場視察 山口隊員 (写真 11/1) 丹隊員 (木工 10/1)	クマシ
8	1月15日	土	8:00 13:00	クマシ発 理数科教師隊員意見交換会	アクラ
9	1月16日	日	11:00 19:00	アクラ発 ヨハネスバーグ着	ヨハネスバーグ
10	1月17日	月	9:45 11:00 13:00 15:00 16:00	ヨハネスバーグ発 ハボロネ着 ボツワナJICA事務所と打合せ 隊員活動現場視察 三馬隊員 (家政 9/3) 阿南隊員 (SE 10/2)	ハボロネ
11	1月18日	火	6:00 10:00 11:30	ハボロネ発 パラピエ Vocational Center 視察 パラピエ Brigade 視察	フランシスタウン
12	1月19日	水	6:00 10:00 17:00	フランシスタウン発 隊員活動現場視察 長岡隊員 (自動車整備 11/2) 後藤隊員 (木工 9/3)	シャカウエ
13	1月20日	木	9:00 13:00 15:30	シャカウエ発 マウン農業局 視察 マウン Vocational Center 視察	マウン
14	1月21日	金	13:00	マウン発	ハボロネ
15	1月22日	土	18:00	隊員懇親会	ハボロネ
16	1月23日	日	8:00 10:00 14:00	ハボロネ発 隊員活動現場視察 大田隊員 (野菜 10/1) ハボロネ発	ヨハネスバーグ

17	1月24日	月	9:30	南アJICA事務所と打合せ	
			11:00	在南アフリカ共和国日本大使館表敬訪問	ヨハネスバーグ
18	1月25日	火	13:00	ヨハネスバーグ発	機内泊
19	1月26日	水	17:00	成田着	

7-(1) ガーナ 理数科隊員調査結果

報告者：技術顧問 田中 清邦

I 教育省表敬訪問

ブードゥ・スミス氏（ディプティ ジェネラル ディレクター）と面会する。ラマダン明けで休日にもかかわらず、スタッフは出席していた。

彼は、日本の隊員活動を高く評価しており、できればもっと多くの隊員と交替期間を延長して欲しい等の要請があった。希望は、十分理解できるが、日本側の事情もあり、努力はするがガーナだけに隊員を派遣しているのではないこと等を説明して理解を求めた。

各校を巡回後、再度来省して感想を聞かせて欲しいとの要望があった。

教員ストライキが丁度始まり、スミス氏と面会するのは不可能と思われたが時間を変更して実現できた。

報告した主な内容

1. 生徒が男女とも親切で人なつこい
2. 規律がよい、教員の権威と生徒の素直さ
3. 環境、校庭広く緑が多い
4. サイエンス・リソース・センター（SRC）の素晴らしさと効果的活用
5. 初等教育の充実（九九）

II 各校を視察して

1. 隊 員 各自の能力に応じて、それぞれ努力をし成果をあげつつある。滞在期間の長短により、また経験の差により教え方に工夫の違いがある。
2. 生 徒 一般的には明るく素直である。ただし現地の教員と隊員とでは若干授業態度が異なるようである。現地の教員には、絶対服従であり、それが長所と欠点となって表れているように思われる。
3. 教 員 多くの校長はじめ教員は、隊員に好印象を持ち、もっと多く長く派遣してほしいという希望が多かった。
4. 施設・設備 訪問した各校は概ね校舎はしっかりしていた。教室内が暗く、黒

板がいたんで書きづらく読みにくい。特別教室等はSRC校を除いて皆無かほとんどない。備品・薬品の類は不足している。

5. SRC校とサテライト校の関係

訪問したSRC校には数学の隊員が派遣されており、できれば理科専門の隊員が望ましい。サテライト校に派遣された隊員にとってSRCの隊員から、種々の情報を入手できるメリットがあり、そこへ行って授業をする際も何かと便利であろう。

サテライト校からSRCへの生徒輸送、月に何回利用できるかということが大きな問題点となろう。

6. 環 境

- a. 隊員の多くがマラリアや腸チフスになり、初めの計画とはいくつか変更をせざるを得なかった。
- b. 教員がストライキをはじめ、多くの学校には教員・生徒が不在であった。訪問した学校は隊員が生徒を集めたり、帰さずに待っていてくれたので、授業がスムーズに行われた。
- c. 新学期が始まったばかりで、ストに参加しない学校も、生徒に授業料を持ってくるよう家に帰して、事実上授業のできない学校もあった。

Ⅲ 調整員との話し合い

1. 今後70名隊員が目標で、理数科隊員は30名体制にもっていきたい
2. 英語力はテスト60点以上でなく、もっと実力のある隊員
3. 最低家庭教師の経験ある隊員
4. 学力が低い生徒を教えられる
5. 教育の本質が教えられる
6. HOW TOに走る傾向
7. JOCVの理科・数学教員であることの自覚
8. SRC校はレベルが高いので、優秀な隊員の派遣
9. SRC校のみに隊員を送るつもりはない
10. サテライト校とSRC校とはグループになっている。SRCがある地域の学校へ配属
11. サテライト校へは地域にとけ込む隊員

- 1 2. 派遣隊次は 100% 1 次隊を希望
- 1 3. 来年度から年度始めが 9 月になる予定
- 1 4. 隊員の欠点 語学、生活面、人の心がわかる

IV 理数科隊員との意見交換

予め記入してあるアンケートをもとに質疑応答を行った。主なものをあげると以下の通り

1. 授業中立ち歩く、トイレにすぐ出ていく
2. 英語が理解できない（生徒・教員とも）
3. カンニングが多い
4. 時間にルーズで授業が計画通り進行しない
5. クラスコントロールがうまくいかない
6. 生徒の計算力が弱い
7. 実験は生徒も好きであるが器具等がない
8. 後任はきちんとした人を送ってほしい

これらに対して一つずつ説明した。

「教育とは、立腹したり自信を喪失したりせず、ほとんど全てのことに耳を傾けられる力のことである」を例に引いて解説した。

V 授業を実施した隊員 11 名（ボルタ地区、クマシ、クワベン地区）

- 大原 健治（10 / 2）数
- 友久 保彦（11 / 2）数
- 大山 聡（11 / 2）数
- 宮嶋 諄一（11 / 1）物
- 鈴木 良和（9 / 1）化
- 上村 真代（11 / 1）物
- 伊藤 幸子（11 / 2）化・化
- 雨宮 こずえ（10 / 1）化
- 格和 洋行（10 / 3）数
- 仲俣 静江（11 / 1）物

VI 授業を参観して

・大原健治 (10/2) チト高等技術学校 (数学)

新学期のため生徒が全員そろわず、2・3年合同(40名)の授業であった。前回の復習後、ポイントを説明し例題を与え、机間巡視をしながら個別に対応していた。 $(x+a)(x+b)$ の基本を忘れていた生徒も見受けられた。数名を指名し解答を黒板に書かせ、それを説明しながら Q and A を行なった。手なれた指導法であった。できれば生徒同士で Q and A ができるようになると、授業がもっと活発になるであろう。色チョークを用いるなど工夫がなされ、校長の信頼も厚いようである。

・友久保彦 (11/2) タヴィエフ高等学校 (数学)

教育実習で大原隊員のチト高校ではじめての授業であった。少々緊張ぎみであったが、説明ははっきりしており、声も大きく黒板の字はていねいで見やすかった。例題が出来た生徒をほめていたのは、生徒の自信と意欲を高める内発的動機付けにつながる良い方法である。

$-3ax-6az=-3a(x+2z)$ の()の中が+になるところが何人かの生徒には理解しにくいところのようである。

どの隊員も始めはそうであるが、質問に対して語い不足のためか同じ英語で説明をくり返すため、お互いにとまどいがあるようである。今後の課題であろう。

一寸気になったのは、授業途中で生徒が無断で教室を抜けだすことである。トイレに行くのであろうが、ことわって行かせる方がよい。このことは他の学校でも見受けられた。

新隊員にとって、休憩後の授業でいかに早く生徒を教室へ入れて授業が出来るかが大きな問題のようで、先輩隊員も苦勞しているところである。

・大山 聡 (11/2) ボソ高等技術学校 (数学)

彼も友久隊員と同じく、チト高校での教育実習であった。やはり少し緊張していたが、授業そのものは良かった。わかりやすい親切な説明である。

$x^2+12x+32=(x+a)(x+b)$ の a, b を求める例題のとき $x^2+(a+b)x+ab$ で $a+b=12$, $ab=32$ となる a, b は生徒にとって $32=1\times 32, 16\times 2, 8\times 4$ がすぐうかばず、加えて 12、

掛けて 32 の 2 数は思った以上に難しいようである。九九等の基礎練習をくり返し要求される場所である。

チト高等技術学校の校長はこの地区の指導的立場にあり、隊員の研修授業を積極的に受け入れている。校長に感謝を述べる。彼は JOCV を高く評価している。

・宮嶋淳一 (11/1) EP 系教員養成学校 (物理)

現職の高校教員で、経験も豊かであり教える内容を把握しているため安心して参観できた。生徒の心理をよくとらえて説明の間のとり方やきちんとした板書で、ノートする時間を与える等指導にゆとりがある。Q and A も多くとり入れ、正解にはほめ言葉を多用して意欲をうまく引きだしている。

教員養成校なので生徒のレベルは高いが、 $\sqrt{2} \times \sqrt{2} = 2$ が苦手な生徒もいた。

養成校には VSO (女性) が一名勤務している。副校長に彼女とのちがいを訊ねたら VSO との差はコミュニケーション (英語) がおそいだけで、他はむしろ秀れているとのことであった。彼の信頼度はかなり高いようである。

・鈴木良和 (9/1) アゴティメ高等学校 (化学)

彼に限られた条件下で実験をとり入れた授業を行う努力・意欲は他の隊員も見習うべきである。

他校と比較すると実験器具や薬品が用意されていた。薬品は JICA 隊員経費より購入したそうである。

水素とアンモニアの発生を 80 分間で行った。生徒が実験に不慣れなためか時間が不足ぎみであった。濃塩酸等危険な薬品の取り扱い方は徹底すべきである。

彼の持論である、楽しく理科授業を行い、且つ生徒にも楽しく学んでもらいたいという趣旨は成功したと考える。

・上村真代 (11/1) ソコデ高等技術学校 (物理)

彼女の明るい性格が随所に出ている授業であった。仕事に対する定義をくり返しながらかえさせている。3年生にしてはパーセントがわからない等のハンディがあったが、いくつかの例をあげながらいねいに説明して好感が持てた。

ただテーマがあちこちに飛び、彼女の意図するところを生徒が正しく理解できたか疑問の点もある。しかし一生懸命努力している姿勢がよく伝わってきた。

・伊藤幸子 (11/2) 救世軍高等学校 (化学)

彼女も教育実習として雨宮隊員のペキ高校ではじめての授業であった。彼女には2回行ってもらったが教えることに大変意欲的である。

1回目の原子・分子の説明は声が少々小さく、周期律表の使い方に生徒の理解を越えるものがあったようである。

ミーティングでいくつかの改善点を話し合った。2回目は前回の経験が生かされたよい授業(イオン結合)であった。ここで彼女は知っていることと教えることの違い・難しさを改めて悟ったようである。

人の意見を素直に受け入れ、研究熱心であり、今後に期待が持てる。

・雨宮こずえ (10/1) ペキ高等技術学校 (化学)

中和の授業であった。さすが一年間の経験は、落ち着いた態度、身ぶりをまじえたわかりやすい説明に表われていた。

酸・塩基等の要点を押え、そこをくり返しながらか授業を進めている。一方、試験に合格させることも念頭に、興味ある話題や個別指導にも力を入れている。理科のおもしろさ、楽しさを学ばせることに重点を置いているのがわかる。

シラバスがかなり難しく量も多いので、論理的思考の育成には苦勞が伴うようである。

・格和洋行 (10/1) クワベン高等技術学校 (数学)

声が大きく明るく元気のある授業で、クラスに活気があった。2年生の正負の計算で、問題の答の導き方を生徒に訊ね、色々つつ込んでいるのはさすがである。

$4 - (-3) = 7$ はできない生徒が何人かいた。説明の仕方に工夫が求められる。正負の計算は日常生活などから考えさせることも一方法であろう。計算ができるようになるにはくり返しが必要であるが宿題(ドリル)を出してもやっけてこないのが悩みのようである。

・仲俣静江 (11/1) コナドゥイヤドム高等学校 (物理)

明るい笑顔で黒板をいっぱい使った指導はよい。1年の単位の復習で $1\text{m} = 100\text{cm}$ 、 $1\text{cm} = 10\text{mm}$ 、 $1\text{l} = 1000\text{ml}$ は答えられる。 1.4m と 149cm の長短は 1.4m が長く、理由は m は cm より長いと答える生徒がいた。わかりやすい指導として、抽象的でなく 1m や 1cm の紙テープを全員につくらせ持たせる、 1l の立方体を作らせる等具体物を

通して理解させることが不可欠である。説明はかなり、ゆっくり、ていねいに行っていた。話し合いの結果、今後の授業が楽しみである。

まとめ

1. 隊員派遣

現状ではかなり困難ではあるが、可能な限り教員経験者が少なくとも一地区に1～2名いることが望ましい。教員免許所有者がいることも効率的である。ただしここが難しい所であるが、教員免許がなくても、むしろないからこそ、自分の考えやアイデアを自由に発揮でき、効果をあげられる長所もある。

サイエンス・リソース・センターを見学して、ここを有効に活用するには、現職教員が最適であることは疑いのない事実である。

2. 生徒の学力向上

2年間の隊員の努力だけでは限界があり、後続隊員が来るとしても、任国教員とのさらなる協力と初等教育の充実が焦眉の急であると考ええる。

ガーナ教育省も初等教育改善に力を入れているが、今後の基礎学力のいかんによっては、隊員の努力はさらなる発展へと結びつくと推察する。

3. 今後の課題

- 1) 隊員 ・内菌清シニア隊員を中心とした現在の理数科隊員の研修に於ける質の拡充
・任国教員とのさらなる交流と協力
- 2) 募集 社会人経験者、現職教員の参加促進とその方法
- 3) 研修 補完研修に於ける課題設定と教員免許所有者の補完研修参加

いずれにせよ、日頃の隊員の活動が、教育省、学校関係者、生徒に高く評価され、期待されていることは誠に喜ばしい限りである。さらなる発展のため努力・工夫が求められよう。

Ⅶ その他

隊員各自の健康管理の徹底

7-(2) ガーナ 地方隊員調査結果

I ボルガタンガ及びナブロンゴ周辺

ボルガタンガはガーナ最北部に位置アッパーイースト州の州都である。以前は首都アクラとの間に国内便があったが、航空会社の収益の悪化で現在は運航されていない。そのため、アクラとのアクセスは陸路に限られてしまい、アクラからボルガタンガまで車で憂に 12 時間かかる。

また、ナブロンゴはボルガタンガからさらに北西 30 キロほど行ったところに位置している。

どちらも、アクラよりは湿度はないもののアクラより気温は高くなる。ガーナは全国がマラリア汚染地域であり、一般的に北部が医療施設などのインフラが整備されていないことを考慮すると、ボルガタンガ及びナブロンゴは地域的には最も医療面でのリスクの高い派遣地域と置いていいであろう。

ここには隊員は 4 名派遣されているが、そのうち 3 名の活動現場と生活環境を視察した。

I-a ボルガタンガ 吉岡裕幸隊員 (10/1 理数科教師)

吉岡隊員の配属先はボルガタンガ Sec. School (愛称 Big Boss) である。Big Boss は名のとおり、ボルガタンガ市内で最も大きい Sec. School であり、吉岡隊員のほか VSO のボランティアが 1 名理数科教師としている。吉岡隊員は週 2 1 限、物理を中心に授業を行っている。実験の授業風景を見学したが、生徒の活き活きした顔とかなり場慣れした吉岡隊員の堂々とした態度が印象的であった。吉岡隊員は自分の活動について下記のとおり話していた。

1. Big Boss は進学校であり、進学に必要な資格の WAEC (西アフリカ統一試験 日本で言う共通一次試験にあたる) の合格を意識した授業を行う必要である。(Big Boss の合格率 50% 全国平均 40%)
2. 生徒達もやる気があり、一教師としては充実した活動が出来ている。
3. 昨年、一時期毎晩 9 時過ぎまで次の日の授業の準備をしていた時期があり、その結果オーバーワークでマラリアにかかってしまった。このことを踏まえオーバーワークにならぬよう自己管理するようにしている。

また、Big Boss の校長 Mr. Avonsige Francis との会談で校長は下記のとおりはなしていた。

- 1.吉岡隊員は大変働き者で感心している。生徒も彼の授業を楽しんでいる。
- 2.授業以外の面でも一教師として生徒や同僚と良い関係を築いている。
- 3.VSO のボランティア（年齢 50 歳くらい）と比較しても語学を除けばなんら見劣りしない。

I-b ボルガタンガ 磯部桂子隊員（11/1 家政）

磯部隊員の配属先は地方自治開発省ボルガタンガ女子訓練校である。同訓練校は 140 名の生徒を対象に調理と被服を教えている。磯部隊員は被服を担当している。毎日 7:30~14:00 まで学校で指導を行っている。磯部隊員は自身の活動について生徒たちの意欲は高いが、その意欲が品質に現れてこないもので、品質の向上を目指して指導をしている話していた。

一方磯部隊員の住居は学校から自転車で 10 分のところにある。間取りは 1DK で電気も水道も完備されている。毎日寝る時は蚊取り線香を炊き、蚊帳を張ってマラリアを予防している。ボルガタンガ周辺には 4 名の隊員が派遣されており、緊急時等は他の隊員が対応してくれる安心感があり、そのため首都から離れていることで不安は感じていないと話していた。

I-c ナブロンゴ 清水久美子隊員（10/2 SE）

清水隊員の配属先は保健省ナブロンゴ保健研究所である。この研究所は人口統計や家族計画の指導、マラリアの現状調査を行っている。研究所はロックフェラー財団、USAID,WHO からの援助を受けており充実した設備が整っていた。コンピューターは 50 台あり、敷地内には衛星通信のための巨大アンテナがあり、研究所自体がプロバイダーとして機能するだけの設備がある。また、昨年ビルゲイツ財団からの援助で研究所一棟新たに建ち、コンピューターも新たに搬入される予定である。ここで清水隊員はコンピューター課に配属され下記の業務を行っている。

- 1、ランの構築
- 2、プログラム開発
- 3、部品の在庫管理
- 4、トラブルシューティング

カウンターパートシニアスタッフ 2 名とジュニアスタッフ 3 名の 5 名いる。主に OJT でコンピューターを指導している。研究所所長の Mr.Fred Binka の会

談で以下のように清水隊員の活動を評価していた。

1. 清水隊員は同僚としてとても働きやすい。とても働き者で彼女の仕事には満足している。
2. 時として我々がやるべきことまでしてしまい、申し訳なく思うこともある。
3. 成果もいくつかあげており、その一つにビルゲイツ財団の援助で建設した新しいオフィスのコンピューター関連の配線を設計段階から指導してもらった。

清水隊員の住居も研究所の敷地内にあり、冷房が珍しく完備されていた。ただ、冷房を使うと破格の電気代がかかってしまうため、本当に寝苦しい時以外は使えないと話していた。

II ダマンゴ周辺

ノーザン州の州都、タマレから西に150キロのところにダマンゴは位置する。タマレからの道もタマレ側半分は舗装道路であるが、残りの半分はダート道である。ダマンゴ自体はこじんまりした田舎町であるとの印象を受ける。この気候はアクラより乾燥しているものの気温は高い。ガーナ国内の主要幹線道路から外れていることから、アクセスは悪いと言える。

また、町の規模他国からのボランティアが多く、VSOが3名、Peace Corpが2名、JOCV1名いる。JOCVの1名である磯崎隊員は他国のボランティアとも積極的に交流している

II-a 磯崎直子隊員 (11/1 理数科教師)

磯崎隊員の配属先はダマンゴ技術高等学校である。ここで彼女は理科を教えている。彼女は配属前の現地訓練中にフィールドトリップで配属先を訪れた時、自ら校長と交渉し学校の敷地内に住居を提供してもらった経緯がある。そうした彼女の積極的な性格がそのまま活動でも現れていた。配属先校長との会談では、以下のコメントがあった。

1. 現在学校は300名の生徒がおり、19名のスタッフで運営している。ボランティアは磯崎氏のほかVSOが1名いる。
2. 磯崎氏で、JOCV隊員は4代目であるが彼女らの活動には大変感謝している。
3. 出来ることなら、JOCV隊員の任期を3年にしてもらい、一学年を入学か

ら卒業まで面倒を見れたらすばらしい。

上記3については、調査団側から隊員には日本の生活があり、一律3年の任期を課すことは出来ないが、配属先が望みそしてそれに隊員が同意した場合1年間の延長ができることを説明した。

一方、彼女は自身の活動について下記のとおり話していた。

- 1、現在1、2年生を相手に週2限の理科を担当している。進学のためのシラバスと教科書の網羅している範囲と教える順序が違うため、どちらを優先するかで迷った。今は教科書を優先して教えている。
- 2、実験室はなく、通常の教室で実験を行っているため、設備が不足しているため、実験内容が限定される。
- 3、理科の実験を通して、「世の中はちっぽけじゃないよ」ということを子供達に伝えられたらと考えている。

また、離任する前には生徒1人にでもいいので、何らかの形で環境問題についての問題提起が出来たらと話していた。

校内にある住居は他の教員に提供されているものと同じであり、電気はあるものの水道がない。そのため、週1回しか放水されない水道で1週間分の水を溜めるとのことで、大きなドラム缶を見せてくれた。

Ⅲ クマシ周辺

クマシはアシャンティ州の州都であるとともに、ガーナ国内の最大の部族アシャンティ族の中心地でもある。奴隷貿易時代このアシャンティ族は他部族の人間を捕まえて、奴隷として売っていた部族であり、そのせいかクマシの人は気が粗いという話を耳にする。町は活気に溢れ、さすがアクラに次ぐガーナ第2の都市であるとの印象を受ける。

クマシ近辺には3名派遣されているが、そのうち2名の活動現場と生活環境を視察した。

Ⅲ-a 山口健次隊員 (11/1 写真)

山口隊員の配属先はクマシ警察の鑑識課である。そこで鑑識用の写真をカウンターパートとともに現像している。昨年度、隊員現地支援費で機材を導入しており、それらを使って現像する技術をカウンターパートに教えている。活動現場に先立ち配属先責任者 Mr. Richard Baduweh (Depty Commader) に面

話し、先方から以下のコメントがあった。

- 1、現在、本警察本部では写真を重要な証拠の一つとして考えており、現像技術を含め、そうした技術を持ちたいと考えている。
- 2、山口氏で JOCV 隊員が3代目であるが、それぞれの隊員に大変感謝している。
- 3、昨年、導入してもらった機材についても大変感謝している。

調査団側からは JOCV 隊員への理解と協力に謝意を述べてから、JOCV 事業の基本理念は人を介しての協力であるので、昨年導入した機材については極めて異例のことであり、今後こうした形での機材の導入の可能性はないこと伝えた。

一方、山口隊員は自らの活動について以下のとおり話していた。

1. カウンターパートとは良好な関係にあり、任期中にカラー写真の現像が彼ら自身できるよう指導したい。
2. 昨年、前任の田畑隊員が導入した機材をここで有効利用できるよう人材を育成したい。
3. 最終的には鑑識撮影についての基本的な考え方を彼らのなかに残せたらと考えている。鑑識撮影の基本的な考え方とは例えば、現場の野次馬を退避させるとか、撮影前には現場のものに触れない等である。

Ⅲ-b 丹 友子隊員 (10/1 木工)

丹隊員の配属先はクマシからダート道を1時間走ったテツレフという住民約2000人の村にあるテツレフ職業訓練総合コミュニティーセンター(テツレフ ICCES)である。この ICCES は労働社会福祉省の管轄のもとに運営されている職業訓練校で運営母体はコミュニティーで、実際に授業の実施や生徒を集めるのは学校という形態をとっている。コミュニティーは ICCES 設立にあたっては土地及び校舎、必要に応じてスタッフ用の住居を提供する一方、政府は学校運営スタッフの派遣や機材あるいは立ち上げ資本の一部を負担する。現在、ガーナ全国で71ヶ所あるが運営がうまくいっているところはまだ数少ないという。ここテツレフ ICCES は運営がうまくいっている数少ない ICCES の一つである。同 ICCES のセンター長の Mr. Anthony Boateng と会話し、以下のコメントがあった。

1. 当 ICCES はコミュニティーのバックアップのもと、運営が順調にいて

いる。現在、生徒数は約100名でスタッフは8名いる。

2. 丹隊員もチームの1人として非常に良く働いてくれる上、運営面でもいいアイデアを出してくれる。また、コミュニティーにもよく溶け込み村には彼女のホストファミリーまでである。
3. 丹隊員もあと1年あれば、インパクトのある活動を我々と展開できる。また、是非丹隊員の後任の隊員も派遣してほしい。

調査団側からは JOCV 隊員への理解と協力に対して謝意を述べてから、丹隊員の後任について以下のコメントをした。

1. 木工での隊員の確保は日本での募集状況を考えると困難が予想され、スムーズな隊員派遣を約束できない。
2. 一方、青少年活動や村落開発普及員は応募者が多数おり、隊員確保が容易である。アゴメダ ICCES へは青少年活動の隊員が派遣されており、配属先から高い評価をうけている。
3. もし、職種に強いこだわりがないのであれば、青少年活動や村落開発普及員での後任要請も検討してもらいたい。

センター長との会談後、テツレフ村の村長を訪問し、村長からは隊員の活動に対する謝辞をいただいた。

一方、丹隊員は自らの活動について下記のとおり話していた。

1. 去年の3月まではスタッフの手伝いのみしていたが、それ以降は授業を受け持っている。
2. ここの訓練学校は生徒からの授業料と生徒の作った製品でランニングコストを捻出する必要があるため、OJT での教授が主であり、中でも家をたてることを好む。
3. センター長はじめ、村長や生徒との良好な関係を築けており、配属先から要請があれば延長にも応じる。

IV 調査団所感

今回視察した隊員の生活環境は数ある協力隊派遣国の中でも厳しい部類に属すると感じた。特に、マラリアに関しては派遣中の罹患率が400%で、一人当たり平均して4回派遣中に罹患する計算になる。これは「隊員が自らの健康管理をもっと徹底するべき」とうい一言では片づけすることは出来ないと感じ

じた。実際、今回視察した隊員は例外なく自分のおかれている環境を自覚しており、相当な配慮をしていた。現地には医療調整員もいるが、ひどい時は5人もの病人を抱ることがあるという。こうした、環境の厳しい地域では現状を鑑みて、「病気にはかかる」ことを前提とした支援体制の必要性を感じた。

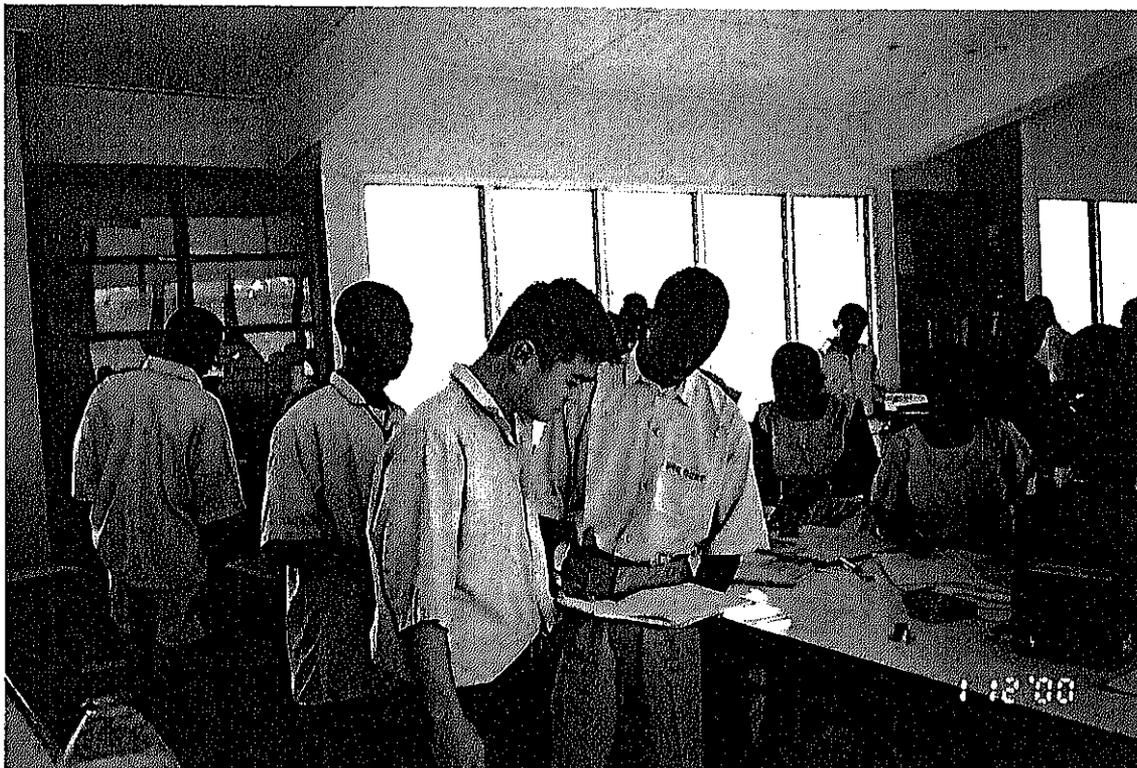
具体的には隊員ドミトリーで療養している隊員の身の回りの世話や食事の用意や入院している隊員の食事の用意の出来る現地スタッフを配置するだけでも随分違うと現地調整員は話していた。現状では医療調整員と医療調整員宅の使用人が療養隊員の身の回りの世話や食事の用意をしているが、今後隊員の増加が予想され、専属の人を配置しないと対応出来ない。ガーナでの一月あたりの平均的な月給が US75\$であり、費用対効果は高いと考えられる。以下の表は過去1年間の実際に療養した隊員数と療養日数と入院日数の一覧表である。なお、療養日数の中には入院日数を含まない。

	1999												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
療養人数	5	3	2	2	7	5	7	4	2	3	2	1	43
療養日数	18	6	12	2	13	18	34	38	8	35	1	5	190
入院日数	24	10	10	5	21	4	10	0	4	3	6	5	102

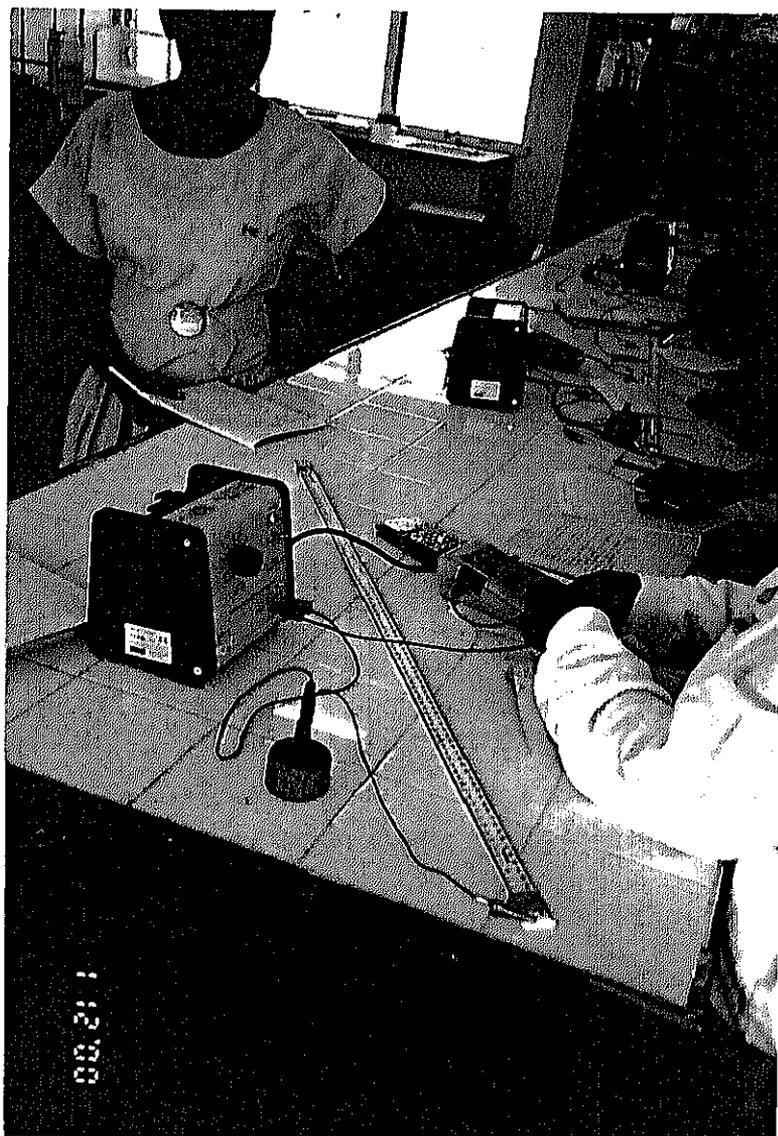
季節にばらつきがあるものの、尋常な数でないことは理解できる。通常入院している日は朝食以外の2食、療養している日は3食用意し、その他身の回りの世話をするとのことであった。

また、配属先についてはどこも概ね協力的であった。特に丹隊員が活動していた ICCES での活動が地域に密着している点で、JOCV 事業に合った配属先であるとの印象を受けた。現在 ICCES へは2名の隊員が派遣されており、今後も文系職種（青少年活動、村落開発）での派遣の可能性を模索して欲しい旨、現地事務所に申し入れを行った。問題となるのは、運営のうまくいっ

ていない ICCES がほとんどで、運営がうまくいっている ICCES の見極めと
のことであった。



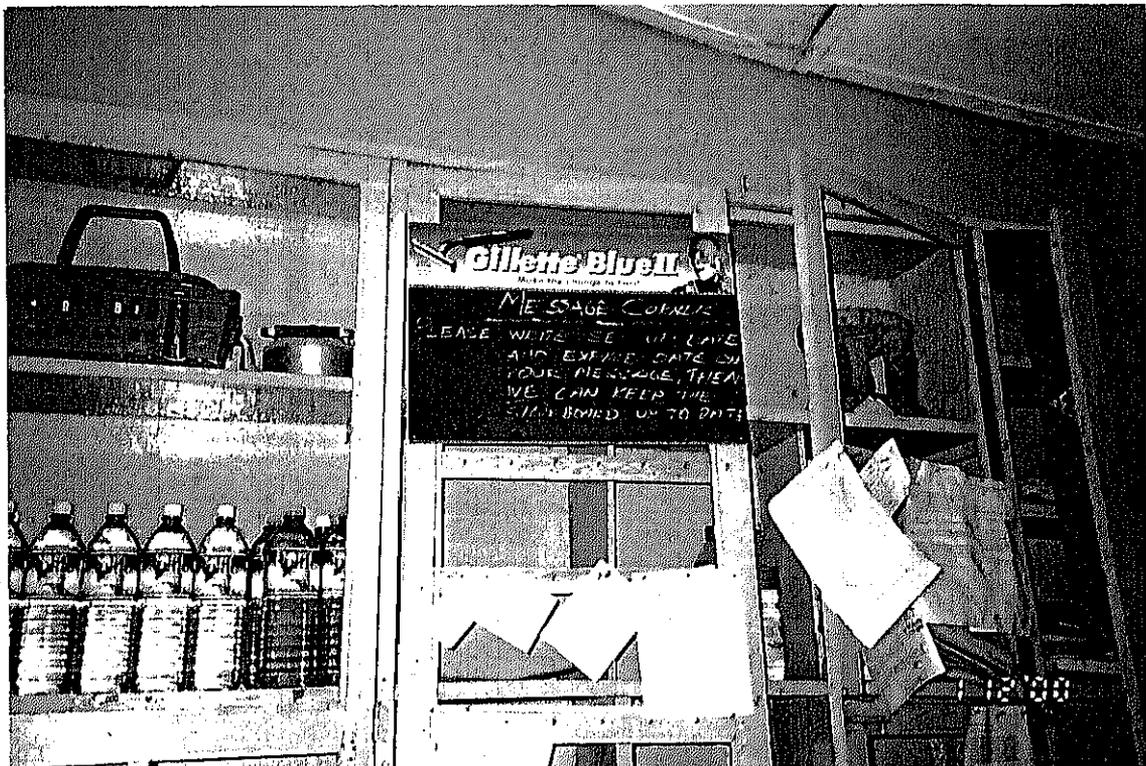
ボルガタンガ Sec. School (Big Boss)での吉岡隊員の授業風景。
すっかり、理数科教師姿が板についている。



授業で使用していた
機材。電圧の実験を
行っていた。



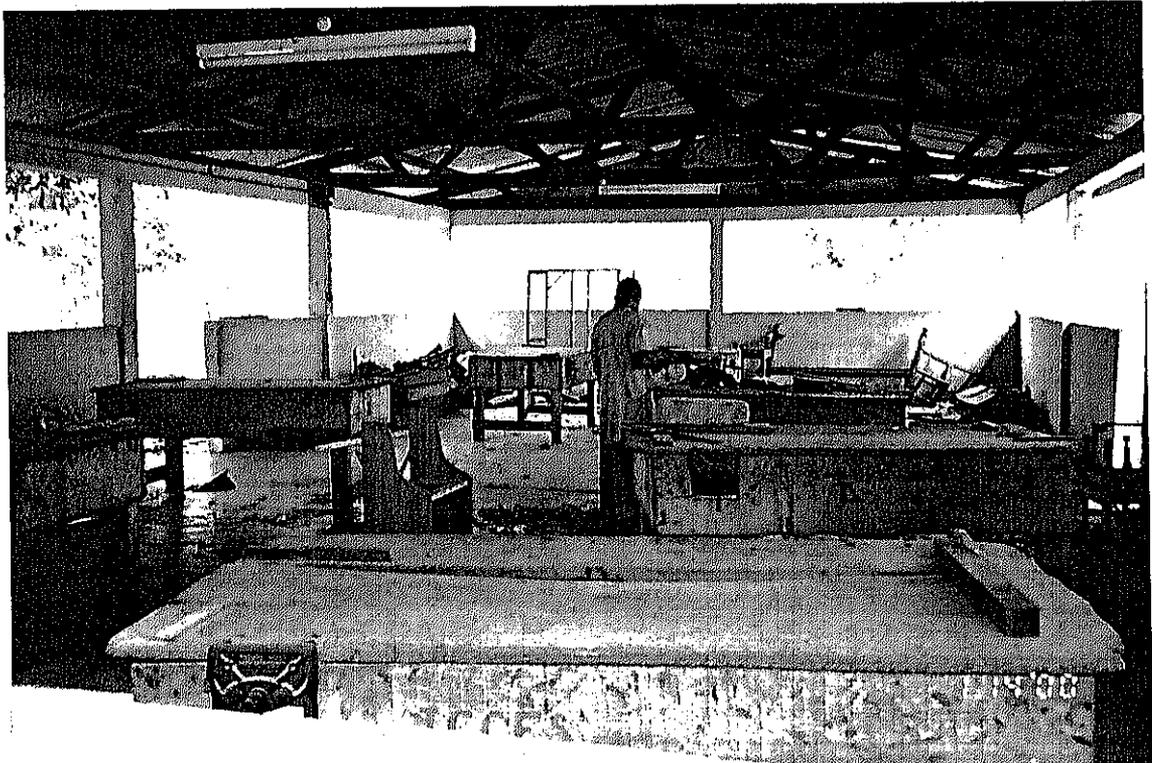
ボルガタンガ周辺の外国人ボランティアのよく集まる飲食店「Travellers' Inn」。JOCV 隊員も休日によく行く店。



店内にはピースコーや VSO の使っている伝言板がある。JOCV 隊員も時々利用する。



テフレフ ICCES を運営しているテツレフ村の村長訪問の様子。
中央が丹隊員 右隣が村長 左隣が ICCES センター長

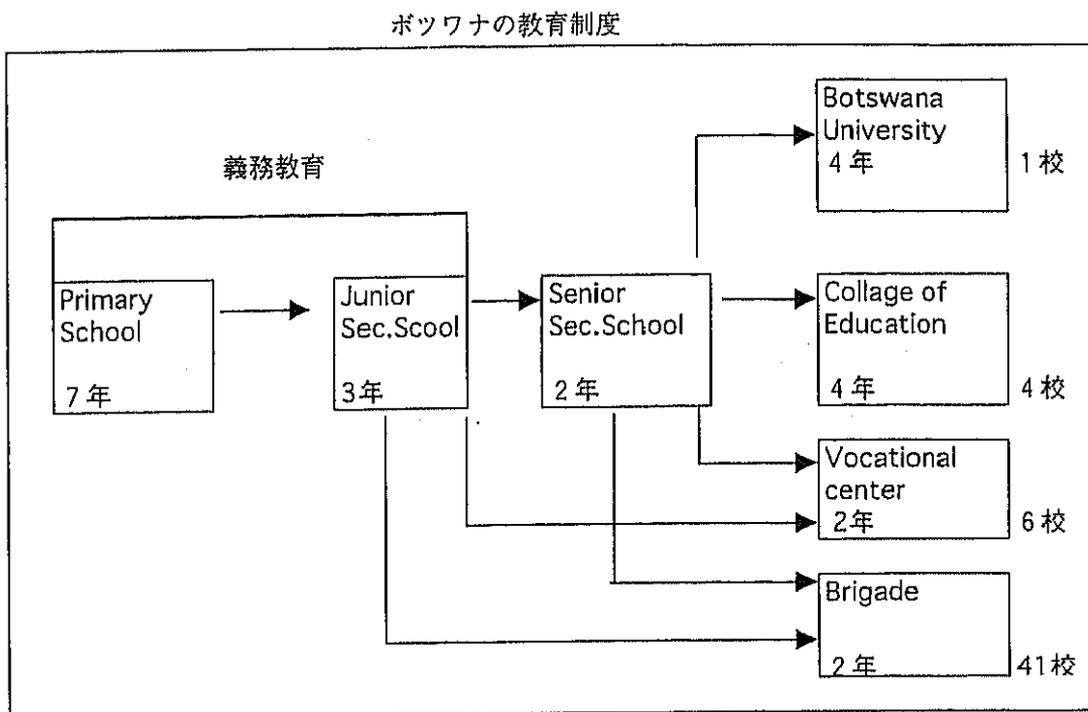


丹隊員配属のテツレフ ICCES の木工作業場。ここで、丹隊員は授業を行っている。

7-(3) ボツワナ調査結果

I ボツワナの教育制度について

ボツワナ国の教育制度については下図を参照いただきたい。通常ボツワナの学生は義務教育を10年受けた後、選択肢が3つある。Senior Sec. Schoolへ進学するか、Vocational CenterあるいはBrigadeで職業訓練をするかである。Senior Sec. Schoolへ進学した者のなかで一般的に最も成績のよいものはボツワナ大学へ行き、それにもれたものが教育大学へ進学する。教育大学へももれたもので希望者は、Vocational CenterあるいはBrigadeで職業訓練をすることができる。



また、同職業訓練校でも Vocational Center と Brigade は同じ教育省職業訓練局の管轄ではあるものの下表のとおりの違いがある。

	校舎建設等 にかかる設備費	ランニングコスト	学生に支給 する手当	運営母体
Vocational Center	政府持ち	政府持ち	90 プラ 約 US5\$	教育省職業訓練 局
Brigade	政府持ち	Brigade で捻出	20 プラ 約 US5\$	地域の コミュニティー

表でも分るとおり、Vocational Center のほうがロイヤリティが高いことがわ

かる。Vocational Center 青年の職業訓練を目的としており、全国に6ヶ所しかない。一方の Brigade は青少年の育成と地域コミュニティの活性化も狙ったものであるようで、地域のコミュニティーの要請に基づき設置される。現在ボツワナ国内に41箇所あり、ランニングコストを自ら捻出する必要があるため、換金性のある事業を運営するかたわら、OJT により生徒に職業訓練を施す。驚くべきことに、どちらも学んでいる学生に手当を支給している。

II 大統領府人事院 (DPSM) 表敬訪問

面談者：Ms. Pillar Mr.Mogotsi

ボツワナでの視察に先立ち、受入窓口機関である大統領府人事院 (DPSM) を表敬訪問した。面談では調査団側から調査の目的と日頃の JOCV 事業に対する理解と協力についての謝辞を述べたあと、先方から以下のコメントがあった。

1. JOCV 隊員の技術的支援には大変感謝している。
2. 各省庁には JOCV 隊員に可能な限りカウンターパートをつけるよう指示しており、実行されていると理解している。
3. 今現在、それぞれの JOCV 隊員は問題なく活動していると理解している。

また、ボツワナ国の受け入れ資格条件が厳しいため隊員確保が難しく、資格条件を緩和してもらえれば、JOCV 隊員が貴国に対して奉仕出来る機会が増えることを伝えた。

これに対し、先方からは下記の回答があった。

1. ボツワナの公務員の技術者は概ね3つのカテゴリーにわけられる。(下図参照)

高卒者	短大卒 Technician	大卒 Professional
-----	----------------	-----------------

2. 本来 JOCV 隊員はボランティアであるので、そうした扱いは不適當であることは理解しているが、現実的には JOCV ボランティアもこのカテゴリーに準じて職場のポストが決定する。
3. そのため、ボランティアが職場で力を発揮するためには相応のポストが必要でそのポストを用意するためそうした学歴条件を課していることを理解してほしい。

調査団側からは仮に配属先が高い学歴を要求しなかった場合、DPSM としてもそれを受け入れる用意はあるかとの問いには「配属先が構わないのであれば、

DPSMとしても構わない。」との回答を得た。

Ⅲ トロッケン教育大学

派遣隊員：三馬瑛子隊員（9/3 家政）

阿南 理隊員（10/3 SE）

トロッケン教育大学はボツワナ国内に4つある教育大学のうちのひとつで、首都ハボロネから最も近い教育大学である。ここで、三馬隊員と阿南隊員は活動している。活動現場を視察する前に同校の校長と面談し、下記のコメントがあった。

1. JOCV 隊員 2 名の活動には大変感謝している。
2. 三馬隊員の後任も来ると聞いているが、大変嬉しい。
3. 2 人の隊員ともに活動上成果をあげており満足をしている。

三馬隊員は自らの活動について下記のとおり話していた。

1. 授業は週に15限担当しており、担当科目も食物、被服、消費者教育及び教育理論と多岐に渡っている。
2. 同僚の先生はレクチャーはできるが、実践的な授業が不得手なので実践を主的な授業を中心に教えている。
3. 同教育大を含めボツワナの傾向として、機材等のものがあるもののそれらを動かすノウハウが無いような印象を受ける。

一方、阿南隊員は自身の活動について下記のとおり話していた。

1. 現在自分の英語力不足を感じており、個人的に英語のレッスンを受けて向上に努めている。
2. 学生はコンピューターを勉強しに来ている訳ではないので、生徒の興味を引くのに苦勞する。
3. 先月、授業とは別にコンピューターのワークショップを開き、何人かの学生にコンピューターの使い方を指導した。今後は毎月なにかを企画して学生の反応を見たい。

Ⅳパラピエ職業訓練センター（Vocational Center）

道端玲子 (11/3 赴任予定 SE)

面談者：BV.Gaottoglwwe ヘッドコンピューターレクチャラー

面談内容

1. パラピエ職業訓練センターではコンピューターオペレーター育成のコースをもっている。
2. またその他のコースでもコンピューターが科目の一つとなっているものがある。これらのコースを5人のレクチャラーで担当している。
3. 今度来る JOCV 隊員にはレクチャラーとして授業を担当してもらうことを予定している。

設備については下記のとおり

- コンピューターラボ2つ
- PCは全部で72ある

V パラピエ技能講習所 (Brigade)

羽地紀幸 (12/1 派遣予定 家督飼育)

面談者：Mr. G. G. Lesonya (Coordinator)

面談内容

1. 当技能講習所は牛、山羊、ロバ、鶏の4種の家畜を扱っている。
2. 来る JOCV 隊員には本人の得意とする種について指導をしてもらいたい。
3. 生徒は全体で220名おり、そのうち農業関連を学んでいるものが50名いる。この50名に対してレクチャラーとして指導してもらいたい。

講習所内を視察した印象としては機材は十分であり、広大な敷地も所有していたが、すべてが十分に活用されているようではなかった。派遣される隊員の活躍する場は十分あるとの印象を受けた。

VI セレビピクエ職業訓練センター (Vocational Center)

水口泰一赴任予定 11/3

面談者：Mr.Schmitt 校長 (ボツワナ政府が雇用しているドイツ人専門家)

面談内容

セレビピクエ職業訓練センターについて

1. ボツワナ全国に職業訓練センターは6つあるが当訓練センターがもっとも

多くの生徒を抱えている。そのことは、最も成功している職業訓練センターと自負している。

2. JOCV ボランティアの立場について
3. JOCV ボランティアはラインには入らない。それはボランティアの性質上、責任を持たせることは考えていない。ただし、その他の扱いはレクチャーとする。

セレビピクェ職業訓練センターで JOCV ボランティアに期待するコンピューター関連の業務について

1. 訓練生対象のコースの中で4コースがコンピューターを1つの科目としている。このコースで技術的支援をしてもらいたい。
2. 地域住民を対象にしたオープン講座でコンピューターを紹介している。このコースで技術的支援をしてもらいたい。
3. 校内のネットワークが完成しておらず、これを完成する必要がある。
4. 新しいアプリケーションの導入
5. インターネットへの接続とメールシステムの導入
6. 生徒のデータベースの構築

これらのなかで、JOCV ボランティアに可能な範囲で協力をしてもらいたい。また、着任後6ヶ月程度経過した時点で本人が直接レクチャーを担当したいようであれば、本人の語学力を考慮しながら、可能であればレクチャーも行うことが可能であるとのことであった。

VII シャカウエ技能講習所 (Brigade)

派遣隊員：後藤勝美隊員 (9/3 木工)

面談者：Mr. Morris Mutetwa (Coordinator)

Mr. Mokgwatchi (Carpentry Manager)

シャカウエはボツワナ最北端の都市で観光地として有名なオカバンゴデルタ地帯のはずれに位置する。北部の国境が接しているナミビアの Caprivi Strip 地域やナミビアとアンゴラの国境付近でアンゴラ軍と UNITA 軍が戦闘している。ボツワナの北部国境にはボツワナ軍と米軍が配備されているものの、シャカウエにはまったく緊張した様子はなかった。

面談内容

1. 後藤隊員の活動には大変満足しており、感謝している。後藤隊員は講習所のスタッフ及び学生にと良好な関係を築いている。
2. 当講習所は製品を作成するための資材の購入に苦勞しており、そうした面で後藤隊員には不自由な思いをさせてしまっている。
3. 後藤隊員に極力延長してもらおうつもりでいるが、その後も後任の隊員を送ってほしい

上記3については、木工の職種での隊員確保が難しいとともに後藤隊員のよ
うに大卒の人を確保することは極めて難しく、隊員確保を用意するため
には学歴条件を緩和する必要があることを理解してもらった。

また、後藤隊員は自身の活動について下記のとおり話していた。

1. 環境のいいところで活動が出来てうれしい。
2. 活動は主に OJT によって換金性の高い製品を作ることを指導している。
3. 資材の購入においてはもっと効率のよい方法があると思えるが、経営
的な部分について口を出さないようにしている。

VIII 農業研究局 マウン支局

金子ゆき (11/3 赴任予定 野菜)

面談者：Mr.E.Modiakgotla MSc Regional Agricultural Research Officer

面談内容

農業研究局 マウン支局の現在の業務

現在支局では大卒2名(男1名、女1名)の研究者で以下のテーマで研究を行
っている。

4. マウン近郊に適する野菜の選別
5. マウン近郊で有効な灌漑方法について
6. 農作物に影響をおよぼす病原菌について

JOCV ボランティアに期待すること

支局で研究者の1人として上記のテーマで専門的に合うものがあれば、そのテ
ーマについての研究を手伝ってもらいたい。合うテーマがなければ、本人の専
門を考慮しながら、テーマを新しく設置し、それについて研究してもらいたい。

現場視察

研究所とフィールドは13キロ程度離れている。JOCV ボランティアが着任後

は毎日研究所の車でフィールドに通ってもらうことになる。

IX マウン職業訓練センター

高居亮介赴任予定 11/3

面談者：Mr.Moagi 校長 Mr.F.C.Sipatela コンピューターコース責任者

MR.Collins Pence コンピューターレクチャラー

面談内容

マウン職業訓練センターのコンピューターコースの現状について

現在大きくわけて2つのコースを設置している。すなわち

1. 地域住民を対象としたコンピューター紹介のコース
2. 同職業訓練センターの学生を対象とした秘書の資格等の取得の為のコンピューターコース
3. JOCV ボランティアに期待することとしてはこれらのコースの技術的支援を中心にしてもらいたい

X 調査団所感

今回強く印象を受けたのは、受入窓口機関（DPSM）を中心に各隊員の配属先の JOCV 事業に対する理解の高さである。隊員はボランティアであり、金銭雇用契約により成果を求められるお雇い外国人ではないことを配属先には最低限理解してもらうことで、派遣された隊員も隊員らしい活動が展開できるようである。これはまぎれもなく現地事務所の日頃の努力の賜物であり、中所得国で JOCV 事業を展開する上で極めて重要であると感じた。

また、今回の調査では Vocational Center 及び Brigade を中心に視察したが、どちらもボツワナ特有の学歴偏重主義が比較的薄く、実践的職業訓練を行っている点で JOCV 隊員の配属先として相応しいと感じた。特に Brigade については学歴偏重主義が薄い傾向が強く、また地域社会が運営母体となっている点でより草の根の活動の出来る配属先との印象を受けた。現地事務所でも今後積極的に要請開拓を行っていく意向であった。

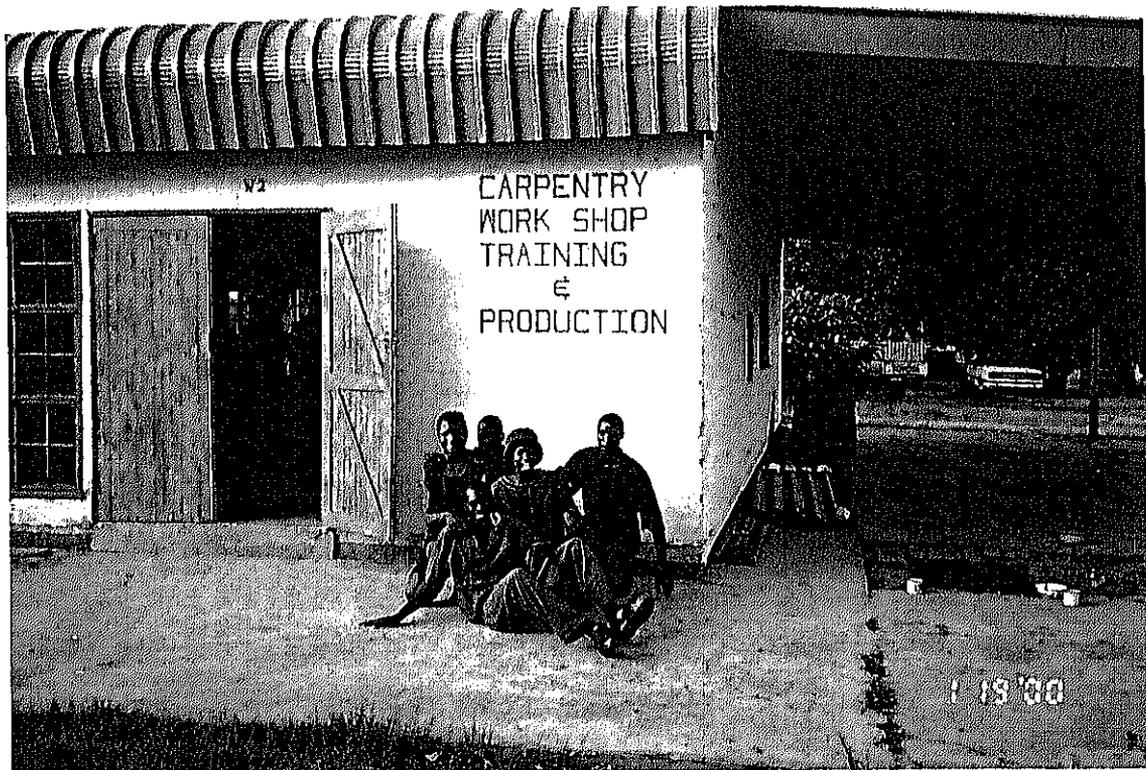
しかしながら、Brigade といえども技術を偏重する傾向があり、より一層のボツワナ国側の JOCV 事業への理解を得ることで、今後文系職種を含む多数の隊員派遣が可能になることを期待したい。



パラピエ技能講習所の農作業校舎。この校舎にて授業等を行う。



パラピエ技能講習所の養鶏所。



シャカウエ技能講習所の木工校舎。この校舎にて製品を作成する。



シャカウエ技能講習所の主力商品。飛ぶように売れる椅子。
ハボロネ価格 380 プラ (約 8,740 円)

8 各事務所との協議結果

(1) ガーナ事務所

協議内容

1. 理数科教師隊員の今後の派遣展望について

現地事務所談

理数科教師隊員はガーナ国の JOCV 事業の看板であり、今後も全体の約半数を目安に派遣をしていきたい。今後全体の派遣隊員数を 70 名程度に増やしたいと考えているので、理数科教師隊員も約 30 名にしたいと考えている。その際シニア隊員の存在は必要不可欠である。派遣地域についてはアメリカのピースコーやイギリスの VSO は北部に展開しているので、JOCV としてはボルタ州を中心に派遣していきたい。

調査団側コメント

シニア隊員の必要性は十分理解できた。また、多数の理数科教師隊員を募集するにあたっては、資格条件の緩和が必要不可欠であり、むやみに技術レベルの高い要請を取り付けないよう申し入れを行った。

2. 理数科教師以外の職種での隊員派について

現地事務所談

幅広い職種での派遣を考えている。JICA 社会総合開発プログラムで他事業部の関係を模索しつつ、新たな配属先を開拓する。

調査団側コメント

応募者の多い文系職種での要請開拓をしてもらいたいことを申し入れた。

3. 隊員の地方展開について

現地事務所側談

隊員派遣の地方展開をするにあたっては幅広い職種での派遣が可能だと考えている。一方、地方隊員の増加にともなって相応の支援隊生が必要になってくることが予想される。アメリカのピースコーはタマレとクマシに車輛を持ったシニア隊員を配置しており、隊員の支援体制を整備している。こうした隊員支援体制を参考にしていきたい。

4. 緊急連絡網の整備について

現地事務所談

昨年、緊急連絡網のテストを行い、10 時間で全隊員と連絡がとれた。また、

毎日 5 : 3 0 に定時交信にて各都市の隊員と交信しており、こうしたことを継続していく。

5. ガーナ国家開発計画と JOCV 事業展開の整合性について

現地事務所談

ガーナ国家開発計画「VISION 2020」において、発展のための環境整備をあげておりそのなかに、教育普及を目指している。そうした面において、ガーナ国で展開している JOCV 事業の看板である理数科教師隊員の整合性はとれている。他の職種についても概ね整合性がとれている。

6. 事務所による隊員活動のモニタリング手法について

現地事務所談

半年に 1 回は各隊員の活動現場を訪問し、配属先責任者と面談している。面談では隊員の配属先からの評価を聴取しており、こうした手法を引き続き用いたいとのことであった。

7. 他国のボランティアの動向

ガーナへは主だったドナーがボランティアを派遣している。その内訳は下記のとおり。

米国ピースコー	英国 VSO	ドイツ (専門家)	シンガポール
理数科教師、 美術教師を中心に	理数科教師、 英語教師を中心に	全て技術者	
約 140 名	約 75 名	27 名	2 名

(2) ボツワナ事務所

協議内容

1. 今後の隊員派遣計画について

現地事務所談

今後も現状の 30 名体制を維持しつつ、地方への隊員派遣を目指す。隊員の地方展開についてはだいぶ進み、今では半数以上が地方へ派遣されている。今後もこうした傾向を強めていく。

一方、派遣増が決定されているシニア海外ボランティアの派遣の可能性は高い英語力を要求されるものの、年輩者を敬う国民性、治安面や医療面で高い

と考えている。ボツワナにシニア海外ボランティアが派遣可能になったら、首都近辺にシニア海外ボランティアを配置し、地方に JOCV 隊員を配置することができると思っている。

2. 緊急連絡網の整備について

現地事務所談

ボツワナは通信事情がよく、各隊員の住居には電話あるいは無線を設置している。また、安全対策の面では来年から安全対策クラークを雇用し、隊員の住居や緊急連絡網の整備についてアドバイスをもらう予定でいる。

3. 他国のボランティアの動向

現地事務所談

ボツワナは GNPUS\$3260 あり、中所得国の仲間入りを果たしている、こうした状況を鑑みて、各国の主だったボランティア団体は撤退しており、残るオランダ及びドイツも 5 年以内の撤退を表明している。

4. ボツワナでの協力隊の効果について

現地事務所談

ボツワナの状況を考えた場合、技術協力という側面での効果は薄いようである。ボツワナ人自身、技術を身に付けようとする発想が薄く実務を外国人労働者に任せる傾向が強い。

一方、日本の青年育成と日本のプレゼンスを示すことについては一定の効果をおいていると考えている。

(3) 南アフリカ共和国事務所

協議内容

1. 南アフリカ共和国 E/N の締結後の JOCV 派遣について

現地事務所談

E/N の締結は本年度中少なくとも来年度中には締結される見込みである。締結後は南アフリカ共和国の治安状況等を鑑みて、最初は JICA のプロジェクトと関連したところへの派遣を考えている。具体的にはムプマランガ州への理数科教師派遣とクワズルナタール州への中小企業（零細企業）育成に関連した職種である。クワズルナタール州への中小企業（零細企業）育成で考えられる職種は手工芸、婦人子供服等である。

2. 南アフリカ共和国の治安状況について

現地事務所談

ヨハネスブルグをはじめとする都市部については依然治安は悪いものの、地方部の治安は安定しており、隊員を派遣しても安全は確保できる状態である。

3. 南アフリカ共和国への JOCV 隊員派遣後の懸案事項について

現地事務所談

南アフリカ共和国へ JOCV 隊員が派遣されるようになると、当然周辺隊員派遣国の任国外研修旅行の対象国となることが予想される。南アフリカ共和国の都市部の治安状況を考慮すると、仮に南アフリカ共和国が任国外研修旅行の対象国となった場合、何らかの形で隊員の行動を規制する必要性が生じてくるものと思料される。

4. 他の周辺国への JOCV 隊員の派遣の可能性について

現地事務所談

*モザンビークについて

モザンビークは地雷の問題があるものの非常にポテンシャルの高い国である。実際最近になって JICA の調査団も多く出ており、ゆくゆくは派遣する可能性がある。

*ナミビアについて

現在、在南アフリカ共和国日本大使館で E/N の締結に向けた交渉を行っているが、相手国側の反応が非常にいいと大使館から報告を受けている。交渉が軌道に乗ったら、短期間で E/N が締結される感触を大使館は持ったようである。

任地	隊員名	隊次	職種	配属先	備考
20 Tlokweng	三馬映子 Samba Eiko	9/3	家政 Home Arts	教育省教員訓練開発局 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Tlokweng College of Education	
21	阿南 理 Anan Osamu	10/3	SE System Engineering	教育省教員訓練開発局 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Tlokweng College of Education	
22 Gabane	三益まりか Mitoml Marika	9/3	家畜飼育 Animal Husbandry	大統領府行政管理庁 Ministry of Presidential Affairs, Directorate of Public Service Management Gabane Secondary School	
23 Ramotswa	柄本由美子 Tsukamoto Yumiko	10/2	建築 Architecture	教育省職業教育局 Ministry of Education, Department of Vocational Education & Training Tswelelopele Brigades Centre	
24 Otse	福森岳央 Inamori Takao	10/1	村落開発普及員 Rural Development	障害青少年自立訓練施設「大空」(NGO) Ministry of Presidential Affairs, Directorate of Public Service Management LEGODIMO, Camphill Community Trust	
25 Lobatse	山田浩貴 Yamada Hiroataka	10/3	SE System Engineering	教育省教員訓練開発局 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Lobatse College of Education	
26 Manyana	山田広治 Yamada Koji	9/3	野菜 Vegetable Growing	農業省協同組合開発局 Ministry of Agriculture, Department of Cooperative Development Kolobeng Horticultural Cooperative Society	
27 Kanye	太田宣人 Oota Nobuhito	10/1	野菜 Vegetable Growing	農業省農林生産局 Ministry of Agriculture, Department of Crop Production & Forestry Ngwaketse Central District Agriculture Office	

任地	隊員名	隊次	職位	配属先	備考
11 Gaborone	青塚茂樹 Aozuka Shigeki	10/2	製版 Plate Making	大統領府印刷出版局 Ministry of Presidential Affairs, Directorate of Public Service Management Department of Government Printing & Publishing Service	
12	工藤得正 Kudo Tokumasa	10/2	土木設計 Civil Engineering	大蔵開発計画省* 技術開発研究セク Ministry of Finance & Development Planning Botswana Technology Centre	
13	清水 晃 Shimizu Akira	10/3	SE System Engineering	大統領府印刷出版局 Ministry of Presidential Affairs, Directorate of Public Service Management Department of Government Printing & Publishing Service	
14	大供史郎 Ootomo Shiro	11/1	経済 Economics	大蔵開発経画省経理局 Ministry of Finance & Development Planning Department of Accountant General	
15	* 大脇宏仁 Owaki Hirohito	11/2	SE System Engineering	土木運輸通信省気象セ* 入局 Ministry of Works, Transport & Communications Department of Meteorological Services	2000年1月17日 配属先赴任予定
16	* 竹中成文 Takenaka Narufumi	11/2	SE System Engineering	大蔵開発計画省* 技術開発研究セク Ministry of Finance & Development Planning Botswana Technology Centre	2000年1月17日 配属先赴任予定
17	* 富永康裕 Tomimaga Yasuhiro	11/2	電気機器 Electronic Instruments High Voltage	鉱物工ネルギー省一資源省水道局 Ministry of Minerals and Energy, Department of Water Affairs	2000年1月17日 配属先赴任予定
18	* 原口昌浩 Haraguchi Masahiro	11/2	電気機器 Electronic Instruments High Voltage	土木運輸通信省電気機械セ* 入局 Ministry of Works, Transport & Communication Department of Electrical & Mechanical Service	2000年1月17日 配属先赴任予定
19	* 福島 健 Fukushima Takeshi	11/2	建築 Architecture	土木運輸通信省建築局 Ministry of Works, Transport & Communications Department of Architecture Building Services	2000年1月17日 配属先赴任予定

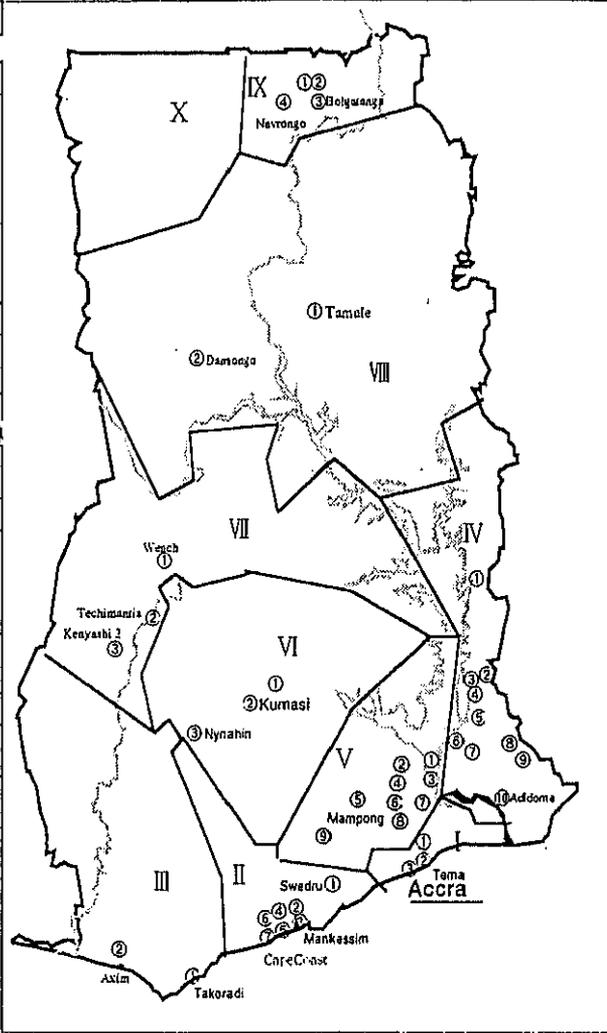
99年12月28日現在

	任地	隊員名	隊次	職種	配属先	備考
1	Shakawe	後藤勝美 Goto Katsumi	9/3	木工 Carpentry	教育省職業教育訓練局カボネ技能講習所 Ministry of Education, Department of Vocational Education & Training Okavango Brigades Development Trust	
2	Mosetse *	長岡勝彦 Nagaoka Katsuhiko	11/2	自動車整備 Automobile Maintenance	教育省職業教育訓練局モセツエ技能講習所 Ministry of Education, Department of Vocational Education & Training Mosetse Brigade Centre	2000年1月17日 配属先赴任予定
3	Francistown	山崎節子 Yamazaki Setsuko	9/2	建築 Architecture	地方行政土地住宅省フランクスタウン市役所 (地方行政管理局フランクスタウン) Ministry of Local Government, Lands & Housing Local Government Services Management/Francistown Town Council	
4		* 俣地多昌弘 Denchida Masahiro	11/2	SE System Engineering	教育省教員訓練開発局フランシスタウン教育大学 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Francistown College of Education	2000年1月17日 配属先赴任予定
5	Scrowe	盛永健規 Morinaga Takenori	10/3	SE System Engineering	教育省教員訓練開発局セロウエ教育大学 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Serowe College of Education	
6	Mahalapye	田崎 寛 Tasaki Yutaka	11/1	自動車整備 Automobile Maintenance	教育省職業教育訓練局マハ技能講習所 Ministry of Education, Department of Vocational Education & Training Madiba Brigade Centre	
7	Molepolole	深瀬起見 Fukami Yukimi	9/3	電子機器 Electronic Instruments Weak Current	教育省教員訓練開発局モレポレ教育大学 Ministry of Education, Department of Teacher Training & Development Molepolole College of Education	
8	Gaborone	小野塚 誠 Onozuka Makoto	9/3	経済 Economics	農業省協同組合開発局協同組合保険共済会 Ministry of Agriculture, Department of Cooperative Development Botswana Insurance Broking Cooperative Society Ltd.	
9		保坂範行 Hosaka Noriyuki	9/3	自家発電機 Small Generators	土木運輸通信省電気機械サービス局 Ministry of Works, Transport & Communication Department of Electrical & Mechanical Services	
10		黒駒和則 Kurokoma Kazunori	10/1	SE System Engineering	土木運輸通信省中央交通局本庁行政管理部 Ministry of Works, Transport & Communication Info. System Management Unit, Central Transport Organization HDQ.	

ガーナ共和国青年海外協力隊隊員配置図

派遣取極 : 昭和52年2月17日
 派遣開始 : 昭和52年8月17日 (昭和52年1次隊)
 派遣実績 : (一般隊員+一般短期隊員+短期緊急隊員+シニア+MC+CC)
 帰国 : 605名 (女性: 137名)
 累積 : 673名 (女性: 166名)
 派遣中隊員 : 68名 (女性隊員: 29名)

X アッパーウエスト州	
VIII ノーザン州	
1. Tamale	10-1 橋義之 (写真) ●▲★ 10-2 水谷 幸 (家政) ● 11-1 橋本拓弥 (村落開発) ●▲ 11-1 須頭寛裕 (バスケットボール) ▲
2. Damongo	11-1 磯崎みづ子 (理数科教師) ●▲
VII ブロング・アハフォ州	
1. Wenchi	11-2 池田奈緒子 (婦人子供服)
2. Techiman	11-1 野々部一成 (理数科教師) ●▲▲ 3. Kenyashi.2 10-2 太尾美紀 (理数科教師) ▲♥
III ウェスタン州	
1. Takoradi	08-2 伊藤真一 (木工) ▲ 10-2 若原敬基 (システムエンジニア) 11-2 仙北谷未来 (デザイナー)
2. Elkwe	11-1 塩沢ゆかり (薬剤師)
II セントラル州	
1. Agona-Swedru	09-2 足立良太 (理数科教師) ▲
2. Fantl-Nyankumashi	10-1 瀧本和之 (理数科教師) ●▲♥
3. Mankessim	11-2 山田孝彦 (工作機械)
4. New Ebu	11-2 浅香由紀子 (家政)
5. Biriwa	11-2 藤田祥子 (手工芸) ▲
6. Jukwa	09-1 土井ゆり子 (理数科教師) ▲ 11-2 加行 崇 (理数科教師)
7. Cape Coast	11-2 大下正行 (陸上競技)
V イースタン州	
1. Bosu	09-1 大泉秀仁 (理数科教師) ▲ 11-2 大山 聡 (理数科教師)
2. Begoro	11-1 廣澤 仁 (理数科教師) ▲▲
3. Akosombo	09-2 岡野 登 (理数科教師) ●▲
4. Kwabeng	10-3 格和洋行 (理数科教師) ●▲
5. New Abirem	10-3 大橋 陽 (助産師) ▲
6. Koforidua/Kukurantumi	09-3 三柴淳一 (電子機器) ●▲ 11-2 奥吉晴美 (卓球) 11-2 高坂慎代 (観光)
7. Adakrom	11-1 藤安志奈 (理数科教師) ●
8. Mampong-Akwapi	11-1 古賀めぐみ (薬剤師) ●
9. Axim-Oda	11-2 伊藤幸子 (理数科教師)



I グレータアクラ州	
1. Dodowa/Agomeda	10-3 渋谷朋子 (青少年) 11-2 森田正博 (電気機器)
2. Tema	09-3 椿澤 賢一 (写真) ●
3. Accra	10-3 柴田浩之 (自動車整備) ● 11-1 辻本慎平 (築造) ●◎ 09-3 黒木秀洋 (自動車整備) ● 10-1 白崎希入 (観光) ● 09-3 金安直樹 (S/E) ● 一般短期 堤 尚彦 (PC) ●◎ シニア内閣 清 (理数科教師) ●

IX アッパーイースト州	
1. Gowrie	10-2 稲積佐代子 (理数科教師) ●▲
2. Bongo	
3. Bolgatanga	10-1 吉岡裕幸 (理数科教師) ●▲▲★ 11-1 菅原純子 (バレーボール) ●▲ 11-1 磯部佳子 (家政) ●♥ 11-2 本田大雄 (水質検査)
4. Navrongo	10-2 清水久美子 (看護学) ●▲ 11-2 前田宗臣 (家政)
VI アシャンテ州	
1. Asamang	11-1 仲俣静江 (理数科教師) ●▲
2. Kumasi	09-1 山田恵子 (染色) ● 11-1 山口健次 (写真) ●♥ 10-1 丹 友子 (木工) ●▲◎ 11-2 甲斐正一 (自動車整備)
3. Nynahin	10-3 斎藤香織 (野菜) ▲▲♥
IV ボルタ州	
1. Dodi-Papase	11-1 大森 岳 (理数科教師) ▲▲
2. Leklehl	11-2 小林 豊 (理数科教師)
3. Alavanyo	10-3 寶山和由 (電気機器) ▲
4. Vane-Avantine Amex	09-2 太田泰義 (理数科教師) 11-1 宮崎淳一 (理数科教師) ▲▲
5. Tavlele	09-2 岩崎光浩 (理数科教師) ▲ 11-2 友久保彦 (理数科教師)
6. Peki	10-1 雨宮こずえ (理数科教師) ●▲♥★ 11-1 廣田慶太郎 (理数科教師) ●▲
7. Tsito/Sokole	10-2 大原雄治 (理数科教師) ▲ 11-1 上村真代 (理数科教師) ▲
8. Tanyishe	11-1 天本いづみ (理数科教師) ▲
9. Kpetoe	09-1 鈴木良和 (理数科教師) ▲
10. Adidome	

- ▲ 長距離無線設置隊員宅
- 短距離無線設置隊員宅
- ☎ 電話回線がある地域
- ◎ 単車貸与隊員
- ▲ マラリア簡易検査保持者
- ♥ ヘビ血清保持者
- ★ 狂犬病血清保持者

注) 1 電話回線はガーナ全土において しばしば不通になる
 2 通信機器の更新については、通常2年間位使用すると調子が悪くなり、更新が必要である。

12034

